

2025 年度 一般入学試験（1 月 31 日）

国

語

（試験時間 60分）

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、26ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～11）に答えなさい。

二〇一四年に、動物細胞にある種の酸に浸けることによって、あらゆる細胞へと分化しうる万能細胞になるという「発見」がなされた。【a】それを証明した論文は画像の修整や捏造^{ねつぞう}が明らかになり、論文が撤回された。このSTAP細胞事件は図^(A)像が客観性を保証するという社会的な合意^(注1)をX^(注2)ものだったといえるだろう。

科学は図像を多数用いてきた。ケンビキョウを用いた細菌学や、fMRIのような大規模な機械によって臓器を撮影する医学や神経科学が顕著な例であろう。つまり現在でも図像は客観性を保証する手段となっている。同時にこの客観性は、写真を加工することや、都合のよい実験結果だけをデータとして採用することで比較的容易に結果をゆがめることができる。

美しいデッサンを多数残した一八世紀から一九世紀前半までの自然科学は、実は目の前にあるサンプルを忠実に模写していたわけではなく、理想形を描いていたという。【b】客観性を求めたのではなく、自然の本性の定着をめざしてきたのだと、ダストンとギヤリソンは論じている。偶然による誤差や奇形に満ちた具体的自然ではなく、神が創造した自然が表すはずの美しい真実^(注2) truth、理念を描くことが求められた。現代ならば「捏造」と言われる理想的な図像こそが、真理を表現するのだ。

スウェーデンの博物学者カール・リンネが作成した植物図鑑も「客観的とはいいたい」ものだったという。正確にサンプルを模写するのではなく、特徴をキョウチョウとして草花の一般的な姿を提示するのだ。「リンネや啓蒙期^{もつ}の学者たちが依拠した規範は、客観性ではなく本性「自然」への忠誠^(B) (truth to nature) だったのである」。科学者とは、神が創造した自然の理念へと直観的に一気に到達する人物のことだった。この直観を一八世紀の学者は図像化しているのだ。

神の権威が弱くなるなか、一八世紀後半の啓蒙思想やフランス革命以降の西欧社会において、学問の真理は神が保証するものではなく、自然そのものの現れにおいて確かめられる必要が出てきた。自然の理念を描くのではなく、自然そのものを客観的に描こうとするのだ。こうして客観性こそが真理であるという通念^アが生まれることになる。一九世紀半ばになると、「客観的な」

図像をどのように作成するのが、大きな課題になってくる。

^(C)機械による客観的な測定はこの文脈のなかで生まれたものである。社会学者の松村一志は測定をおおむね時代順に並べて六段階に分けて整理している。

- ① 感覚の段階……身体感覚によって確認する
- ② 視覚化の段階……物質変化を目視する
- ③ 数量化の段階……物質変化に目盛りを与える
- ④ 誤差理論の段階……「複数回測定して」測定精度を誤差理論によって分析する
- ⑤ 指示・記録計器の段階……物質変化が目盛り上のシシンの動きに変換され、記録される
- ⑥ デジタル化の段階……数量をデジタル表示する

①から③は、判定者が重要になるから、証言によって結果を保証する必要がある。しかし④以降は機械が自動的に計測することになり、測定結果は研究者の手を離れて自立していく。つまり「より客観的」になる。

「c」、機械があつたから客観性が追求されたわけではなく、むしろ客観性の追求への意志が先にあつたようだ。たとえば一九世紀に発展しつつあつた写真という新技術は、偽造・修復可能だ。写真技術ゆえに客観性が重視されるようになったわけではなく、機械的な客観性を目指す要請のほうが先に立ち、写真はその要請のために重宝されたのだ。

客観性とは、人の目というあいまいなものに「邪魔されずに見る」ことを指すようになる。こうして機械的客観性が成立する。写真という機械を手にしたことよつて「人間による判断から解放された表象を手にすることができる」と信じられたのである。^(D)自然は神から人間からも切り離された、それ自体で成り立つリアリティとなる。自然を人間から切り離して正確に認識しようとする意志が、主観性への排除と客観性への執念を生んだのだ。

(E) 一九世紀末から客観性はさらなる段階へと進む。測定や記録された図像の正確さに依拠した機械的客観性は、法則、記号をもちいた論理構造に主役の座を譲る。

たとえば、ゴットロープ・フレーゲ（一八四八―一九二五）に始まる一九世紀末からの現代数学の進展も、人間のソウサとは無関係に成立している論理的な関係のなかに数学の基礎を求めるようになっていった。あるいは物理学においてはマックスウェル方程式のような構造が科学的な実在とみなされるようになった。測定ではなく方程式や論理式が客観性となる、ということだ。言い換えると、「それは何か？」ではなく「事象と事象がどういう関係でつながっているのか？」にシヨウテン^(ホ)が移るといふことである。

一九世紀末から二〇世紀初頭に活躍した物理学者のアンリ・ポアンカレ（一八五四―一九一二）は次のように語っている。

「科学の客観的価値とは何か」と問うとき、その意味は「科学はものごとの本当の Y を教えてくれるか」ということではない。「科学はものごとの本当の Z を教えてくれるか」ということを意味する。

個々の対象ではなく対象間の法則こそが客観性だとみなされるようになるのだ。法則性が重視されることで、人間の関与は一層抹消される。さらには法則の方程式にはどんな数値が代入されてもよいわけだから、個別の対象も抹消される。数式と数値だけが残るのだ。

法則性の追求によって、あらゆる学問の成果は研究者の意識を離れて、客観的に保証されるようになる。図像も機械による測定も離れて、論理的な整合性こそが、自然の科学的真理を言い当てると考えられるようになるからだ。

論理的な構造が支配する完全な客観性の世界が自然科学において実現したとき、自然は実はそのままの姿で現れることをやめ、数値と式へと置き換えられてしまう。自然を探究したはずの自然科学は、自然が持つリアルな質感を手放すようになるだろう。

雨や風の音や匂い、草木が繁茂していく生命力は消えていく（もちろん事象のリアリティにこだわりつづける生物学者・生態学者もいるだろうが）^(F)。客観性の探究において、自然そのものは科学者の手からすり抜け、数学化された自然が科学者の手に残ったのだ。

（村上靖彦の文章による。ただし、一部変更した。）

（注）

1 STAP細胞事件 … 二〇一四年に日本の理化学研究所の研究者が発表した、体の細胞を体中のあらゆる細胞に分化できる状態に変えられるとする研究論文に、不正が発覚した事件。科学の客観性の証明や社会との関係について、大きな議論を引き起こした。

2 ダストンとギヤリソン … ともにアメリカの科学者。科学的図像制作の客観性について共同で論じた著作がある。

3 マックスウェル方程式 … 物理学者ジェームズ・マックスウェル（一八三一—一八七九）が発見した、電磁場に関する法則を数学的に記述した方程式。

問 1 空欄【 a 】 【 c 】に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

～

3

。

c	b	a
3	2	1
① それゆえ	① では	① しかし
② それとも	② つまり	② ところで
③ なぜなら	③ もっとも	③ すなわち
④ または	④ だが	④ こうして
⑤ ただし	⑤ ところで	⑤ むしろ

問 2

空欄

X

には、「相手の行動を利用してやり返す」という意味の慣用表現が入る。その語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

4

① 受けて立つ

② 一蹴する

③ 棚に上げる

④ 仇^{あだ}で返す

⑤ 逆手に取る

問3 破線部ア「通念」・イ「重宝」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

5

・

6

。

ア 「通念」

- | |
|---|
| 5 |
|---|
- ⑤ 時代を超えた根本的な考え

④ 正しく生きるための考え

③ 一般に共通している考え

② 心の中に思い浮かべる考え

① 完全で間違いない考え

イ 「重宝」

- | |
|---|
| 6 |
|---|
- ⑤ 周囲の人に手をつけられないように気を配ること

④ 便利で都合がよいものとして使うこと

③ 大きな信頼と尊敬を集めること

② 今まで知られていない物事として見いだすこと

① 珍しい存在であると認識すること

問4

波線部(A)「図像が客観性を保証するという社会的な合意」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

7。

- ① 視覚的な図像のほうが数値よりも改変が難しいデータとして、真実を証明するために社会で多く用いられているということ。
- ② 文字を中心とした論文の正しさに説得力を持たせるため、科学者は一般に図像を補助として用いているということ。
- ③ 科学的な発見の正確さについては主観を排除して評価するため、実験結果を図像で残すように定められているということ。
- ④ 細菌学や医学、神経科学において、主観を覆す結果を得るために、図像を用いることで人々の意見が一致しているということ。
- ⑤ 科学において、映像や写真などの図像が、対象を正確に再現していると一般に認められているということ。

問5

波線部(B)「この直観を一八世紀の学者は図像化しているのだ」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

8。

- ① 一八世紀には科学者が自然の本性を直観することが重視されており、対象の理想の姿を描いた図像は、そうした価値観を反映したものだということ。
- ② 一八世紀には、対象の正確な模写よりもより理想的な図像を作るほうが、神の創造の秘密に迫る近道だと考えられているということ。
- ③ 現在は理念的な図像を描くことは捏造と判断されてしまうが、一八世紀には人間の直観のほうがより科学的だとして評価されていたということ。
- ④ 科学者は直観で理念へと到達するものであり、一八世紀の学者はそうした真理発見の過程を図像で残していたということ。
- ⑤ 科学者は神の本性に忠実であることが正しいこととされており、一八世紀の学者はそれを証明するために直観的な図像を用いたということ。

問 6

波線部(C)「機械による客観的な測定はこの文脈のなかで生まれた」とあるが、なぜ「機械による客観的な測定」が生まれてきたのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 9。

- ① 科学が自然の理想形を描くことで真理に到達しようとした時代が終わり、自然をそのまま写しとることで神の観念に近づけるという考え方が一般的になってきたから。
- ② 真理を保証するはずの神の権威が弱くなり、自然をそれ自体の現れにおいてとらえようとする流れの中で、自然の図像をいかに客観的に測定するかが大事になってきたから。
- ③ 一九世紀半ばになると機械技術が進展し、記録計器など測定方法がより精密化したため、自然の図像をこれまでよりもさらに客観的にとらえることが可能になったから。
- ④ 合理的な科学精神が神の観念に対してより優位になった時代の流れの中で、人間の心よりも客観的な存在物としての機械が信頼されるようになってきたから。
- ⑤ 自然の理想形を人間の直観によって描くことが科学者の条件だった時代が終わり、自然を写實的に描くことが科学者としての条件とされる時代が訪れたから。

問7 波線部D「自然は神からも人間からも切り離された、それ自体で成り立つリアリティとなる」とあるが、これはどういう

ことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

10。

- ① 写真技術がもたらした客観的画像が、自然を神の創造物という觀念から解放し、人間の視覚を修正したということ。
- ② 写真の登場によって客観的に見るという考え方が人々に浸透し、自然がそれ自体で自立的な力を手に入れたということ。
- ③ 人の目で判断されていた自然は、神の創造物だという考えから解放され、生々しい現実として知覚されるようになったということ。
- ④ 自然が神の手や人間の主観から解放され、単体で客観的な実在性を持つものとして自立するということ。
- ⑤ 客観性を追求する意志が写真技術を人々にもたらし、自然を神の手から人間の手へと取り戻させたということ。

問8 波線部(E)「一九世紀末から客観性はさらなる段階へと進む」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切

なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 11。

- ① 一九世紀から二〇世紀にかけて、科学が現代数学の影響を受け、客観性が数値に依拠するようになったということ。
- ② 一九世紀末以降、客観性の根拠となるものが、正確な測定から事象間の論理的な関係へと変わったということ。
- ③ 一九世紀末に、科学の客観的価値は、正確な図像より論理的な図像に依拠するように変化したということ。
- ④ 一九世紀末より、論理学や物理学が理論を発展させ、科学の価値が測定による客観性から記号による客観性へ移行したということ。
- ⑤ 一九世紀末には、測定に依拠する客観性より、論理で基礎づけられた客観性のほうが神の本性に近いとされるようになったということ。

問 9

空欄

Y

Z

解答番号は

12

13

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Y

12

①

性質

②

数値

③

区分

④

意義

⑤

法則

Z

13

①

起源

②

写像

③

関連

④

質感

⑤

存在

問10

波線部(F)「客観性の探究において、自然そのものは科学者の手からすり抜け、数理化された自然が科学者の手に残ったのだ」とあるが、これはどういうことか。本文の主旨を踏まえた説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

14。

- ① 科学において直観的図像が写実的な図像を経て写真へと変化したことで、科学者が自然そのものと向き合う機会は失われ、実験室の中で数値やデータに変換した形でしか自然の姿をとらえることはなくなってしまったということ。
- ② 自然科学における客観性の追求が、理念から機械的測定を経て法則性を求めることへ変化したために、自然のありのままの姿はむしろ注目されないようになり、科学者は自然を主に数値や式に還元した姿でとらえるようになったということ。
- ③ 神の権威が弱くなるにつれて客観的な合理性への信頼が増加し、それにつれて自然そのものも神の創造物から機械技術に支えられた物理的な存在というところへ変化し、科学者は自然を素の姿で見ることがなくなったということ。
- ④ 自然の本性を描くことが客観的とされた時代から、機械的な測定を経て合理的な法則の把握へと変化していくにつれて、科学者が想起する自然のイメージそのものが変化し、数値や式によって自然をイメージするようになったということ。
- ⑤ 客観性の考え方そのものが変化した過程で、科学者は神の創造した自然の理念を見失うようになり、機械技術というもののまずは頼ることで、そしてついには数式という無味乾燥なものによって把握するようになってしまったということ。

問11 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 15 19。

(イ) ケンビキョウ

15

- ① サンビを極める事故現場
- ② ビコウ欄を参照する
- ③ ビモク秀麗な男性
- ④ シュビよく物事が運ぶ
- ⑤ ビショウを浮かべる肖像画

(ロ) キョウチヨウ

16

- ① 資金をチヨウタツする
- ② 事業規模をカクチヨウする
- ③ 事情をチヨウシュする
- ④ チヨウジリを合わせる
- ⑤ 繫柴のゼツチヨウを迎える

(ハ) シシン

17

- ① シンミに相談に乗る
- ② 高速道路がエンシンされる
- ③ 医師がオウシンに向かう
- ④ 船のシンロを定める
- ⑤ キンシン処分を受ける

(ニ) ソウサ

18

- ① ソウドウが持ち上がる
- ② タイソウを朝の日課にする
- ③ ソウホウが合意に達する
- ④ 全力でシツソウする
- ⑤ 不要な品をイツソウする

(ホ) ショウテン

19

- ① 臨時国会のショウシュウ
- ② アンショウに乗り上げる
- ③ ショウソウ感を募らせる
- ④ 実権をショウアクする
- ⑤ コウショウな芸術談義

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

「自然の書物は数学の言語で書かれている」。17世紀のイタリアの天文学者、ガリレオの言葉である。著作「偽金鑑識官」に「それなしには暗い迷宮をさまよう」と記している。

この書にセミが登場する。鳥や虫の鳴き方を究明するうち、セミが鳴く仕組みがわからず、人知を超えた自然の姿に無知を自省する。さらなる探究の必要性を説いたのだから、^(ロ)教皇はこの一節を気にいったという。人の手には届かない世界が存在すると受け止めたらしい。

^(A)ガリレオがこのセミの存在を知ったら喜んだのではないか。13年と17年間隔で羽化する北米の周期ゼミである。氷河期の生き

残り戦略と突き止めた静岡大の吉村仁名譽教授は「素数ゼミ」と名付けた。

^(ニ)かつては違う周期のセミもいたが、他の周期との^(イ)**X**が大きい素数周期のセミは多くの子孫を残せたらしい。別種のセミと出会う確率が減るからだという。まさに「数学の言語」だろう。

13年ゼミは温暖な南部、17年は北部に生息する。今年は特別だ。米中西部のイリノイ州やアイオワ州などで2種が同時に羽化する。13×17で221年ぶりの大発生という。今月下旬から最大1兆匹が羽化するというからどんな現象になるか。

日本ではニイニイゼミが減り、クマゼミが増えているそうだ。温暖化の影響とすれば自然の摂理とは言い難い。^(ホ)夏のイメージが強いセミだが、松林で鳴くハルゼミもいる。4月から夏日が続くようでは将来が心配である。春蟬を聞いて仰臥の手足かな山口誓子。

（『毎日新聞』二〇二四年四月一七日「余録」による）

問 1 破線部ア「究明」と近い意味の語句として適切ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番

号は

20

① 糾問

② 解明

③ 考究

④ 考証

⑤ 探索

問2

波線部(A)「ガリレオがこのセミの存在を知ったら喜んだのではないか」とあるが、なぜ筆者はこのような考えるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

21。

- ① 素数ゼミの奇想天外な生存戦略に、きっと驚くだろうから。
- ② 人知を超えた神の意志の存在を、素数ゼミから確信するから。
- ③ 素数という概念に、ガリレオは特別な意味を感じていたから。
- ④ 不明だったセミの鳴く仕組みが、素数ゼミによって理解できるから。
- ⑤ 素数ゼミの周期の理由に、「数学の言語」を見いだせるから。

問3

空欄

X

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

22

。

① 戦略の違い

② 最小公倍数

③ 重複の可能性

④ 遭遇リスク

⑤ 競争倍率

問4

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

23。

- ① 北米の「素数ゼミ」の生き残り戦略は、一見不思議な自然現象の背後にも常に何らかの原因があると考えたガリレオの正しさを示した。
- ② ガリレオを含めた近代以前の人々は、セミや人間を含めたすべての生物は人知を超えた神の摂理によって支配されていると考えていた。
- ③ 本文が発表された年は周期ゼミが221年ぶりに大発生する年であり、吉村氏の予測によると周期ゼミは種の存続の危機を迎える。
- ④ 周期ゼミの進化の背景にある「数学の言語」は興味深いが、日本のセミ分布の変化が温暖化の影響であるとすれば将来が心配だ。
- ⑤ 近年のニイニゼミの減少とクマゼミの大量発生の原因が温暖化の影響だとすると、日本に生息するセミの種類は今後激減するおそれがある。

問5

次の文章の空欄

I

II

に入れるのに最も適切なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。解答番号は

24

25

セミを題材とした俳句としては、本文で取り上げられているものの他に、正岡子規による「鳴きやめて飛ぶ時蟬の見ゆるなり」や「上野から庭の木へ来て蟬の聲」などがある。俳人であり歌人でもあった子規は、俳句および短歌の革新に取り組んだ。子規は自らの考えを作品として実践するだけでなく、俳論書『II』などの形でも世に問いかけ、明治時代の日本文学に大きな影響を与えた。

I

の概念を提唱して、

I

24

① 切れ字

② 字余り字足らず

③ 写生

④ 季語

⑤ 人情

II

25

① 一握の砂

② みだれ髪

③ 智恵子抄

④ 歌よみに与ふる書

⑤ 田園に死す

問 6 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

26

～

30

。

(イ) 鳴き方を究明するうち

26

(ロ) 必要性を説いたのだから

27

(ハ) 人の手には届かない世界が

28

(ニ) かつては違う周期のセミもいた

29

(ホ) 自然の摂理とは言い難い

30

① 名詞

② 動詞

③ 形容詞

④ 連体詞

⑤ 副詞

⑥ 接続詞

⑦ 助詞

⑧ 助動詞